

森岡地区拠点施設基本構想(案)【概要版】

I 背景・目的等

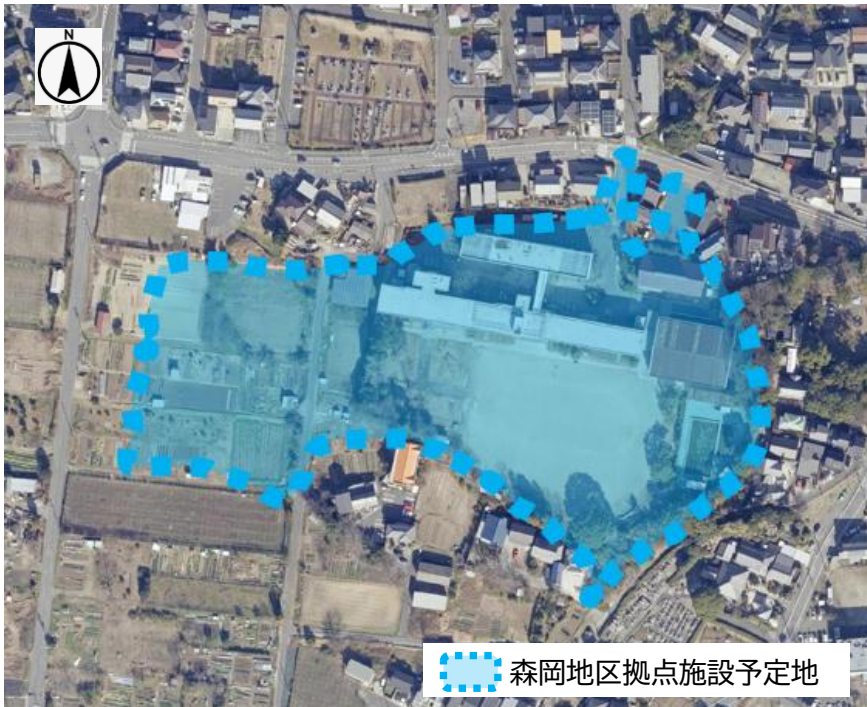
東浦町公共施設再配置計画に基づき、森岡地区を地区拠点形成のモデル事業として位置づけ、地区施設の複合化・集約化により、多世代交流や多機能化による利便性向上や合理性・効率性の最大化、コスト縮減等を図る。

森岡地区拠点施設基本構想では、コンセプト、施設の基本的な考え方、導入機能などについて検討する。

II 現状把握

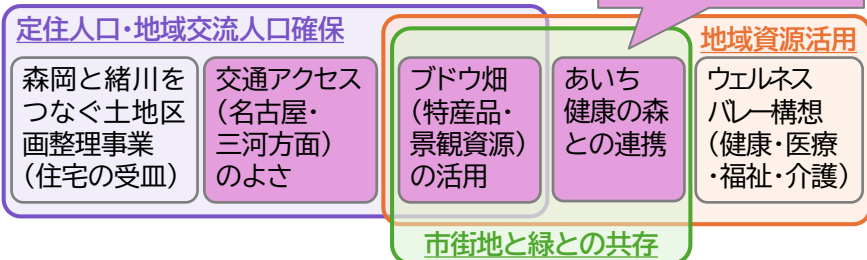
II-1.森岡地区拠点施設に係る複合対象施設概要

施設名	建築年	延床面積 (㎡)	施設名	建築年	延床面積 (㎡)
森岡分団詰所	1981	99.94	森岡コミュニティセンター	1980	788.07
森岡保育園	1971	617.49	森岡老人憩の家	1987	171.69
森岡西保育園	1975	1,337.30	北部ふれあいセンター	1994	721.38
森岡児童館	1997	329.02	森岡小学校	1963	6,837.50



II-2.森岡地区の目指す姿と 森岡地区における拠点施設の位置づけ

【森岡地区の目指す姿(キーワード)】



【森岡地区拠点施設の位置づけ】

立地の良さに加え、地域資源を活かし、学びだけでなく、ブドウや健康・福祉の視点も含めた魅力的な拠点形成が必要

⇒まちの付加価値を高める拠点を形成することで、森岡地区への「住みたい、住み続けたい、学びたい、働きたい」に貢献し、まちの魅力向上、愛着醸成に繋がる。

III 複合拠点整備に係る課題及び必要性

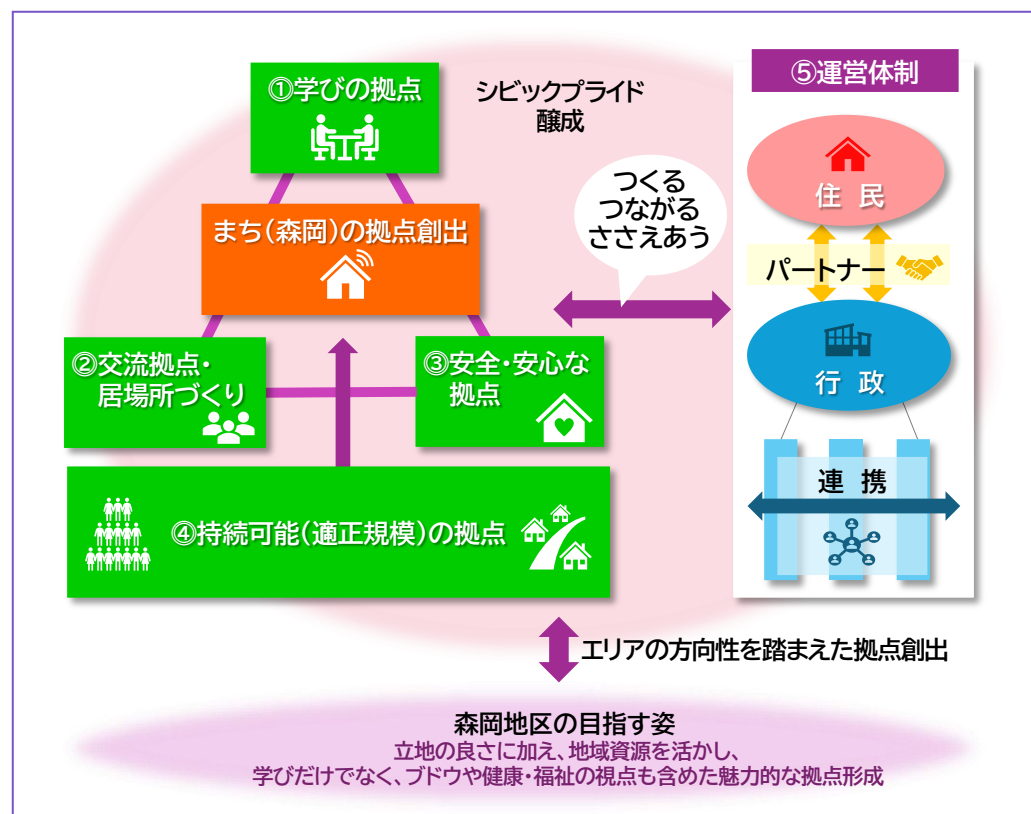
- ① **新しい時代の学びに向けた拠点形成・地域住民の学びの場**
 - ・複合化を活かした新しい学びにふさわしい教育環境・多様な教育への対応
 - ・森岡らしい魅力のある学びの拠点・地域住民の生涯学習としての学びの場
- ② **コミュニティ拠点・地域住民の居場所づくり**
 - ・多様な地域住民みんなの交流や地域住民活動の活性化
 - ・歴史や自然等の様々な資源を活かした特色ある拠点
 - ・気軽に訪れ、居場所となり、シビックプライドの醸成に寄与する拠点
- ③ **利用者の安全確保・防災拠点としての施設整備**
 - ・児童や園児をはじめとした利用者が安全・安心に過ごせる拠点
 - ・近年の激甚災害にも耐えうる防災拠点
 - ・森岡地区の安全なまちづくりに寄与する拠点形成
- ④ **将来を見据えた持続可能な適正規模の施設整備**
 - ・中長期を見据え必要なサービスは確保しながら適正規模の施設
 - ・柔軟性や可変性のある拠点・SDGsや脱炭素化等を踏まえた拠点
 - ・ファシリティマネジメントの観点を踏まえた持続可能な拠点
- ⑤ **管理運営体制の検討、関係主体の意見反映の場**
 - ・施設を一元管理できる体制の検討
 - ・地域ぐるみで皆が自分事、みんな事として協働運営する環境の土台を形成し、「つくる つながる ささえあう」を実現

IV 複合拠点施設の目指す姿

IV-1.基本理念

「つくる・つながる・ささえあう」を実現する
世代を超えて幸せと絆もりもりの拠点創出

IV-2.コンセプト



IV-3.基本方針及び整備方針

①学びの拠点

児童・園児の学びをはじめ、地域住民の「学びの拠点」を形成する。

- 新しい時代の学びを実現
- 地域に開かれた特色ある学校づくりの実現
- 個性化教育の推進
- 地域住民への学習機会の提供

②交流(コミュニティ)拠点・居場所づくり

多様な方が居場所として利用でき、繋がることのできる「交流の拠点」を形成する。

- 交流
 - 自然に多様な交流を生み出す
 - 様々な活動や事業間連携を促進
 - 地域に開かれたデザイン
 - あいち健康の森やウェルネスバレー構想との連携・役割分担
- 居場所づくり
 - 多様な方の居場所となるための多様な空間
 - 「まちの保健室」としての活動ができる空間

③安全・安心な拠点(防災拠点)

防犯性・防災性を持った「安全・安心な拠点」を形成する。

- 防犯性
 - セキュリティラインの確保
 - 視認性(人の目・地域の目)の確保
 - 物理的・心理的に重層的な領域性を確保
- 防災性
 - フェーズフリーへの対応
 - 被災時の電力確保、給水機能維持
 - 避難所・避難場所の確保、教育活動等の早期再開
 - 自主防災会、消防団との連携、交流による啓発・防災教育
 - 立地、避難経路を踏まえた配置・動線計画
 - 耐震安全性の確保

④持続可能(適正規模)な拠点

ファシリティマネジメントの観点を踏まえ、「ちょうどいい」持続可能な拠点を形成する。

- 将来世代へ負担を残さない施設計画
 - 人口減少・将来需要を踏まえた施設規模の設定
 - 空間の共用化・多目的化を図った規模の適正化
 - 柔軟性・可変性のある空間
 - ライフサイクルコストの縮減
 - 官民連携の導入検討
- ニーズ(社会的要求事項)に対する検討
 - ICT化・DX化による行政運営の質の向上
 - ユニバーサルデザイン/インクルーシブデザインへの対応
 - 木材利用やZEB化推進
 - 施設自体を環境教育等に活用

⑤運営体制(管理運営計画)

複合拠点施設の効果的な運用に向け、計画段階から運営体制の構築を検討する。

- 機能間の連携、効率化等を踏まえた体制検討

V 導入機能等

